

公益財団法人京都市芸術文化協会

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 近藤誠一

2 所在地

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 京都芸術センター内

3 電話番号

075-213-1003

4 ホームページアドレス

<https://www.geibunkyo.jp>

5 設立年月日

昭和56年9月30日

6 基本財産

50,000千円（うち本市出えん金 15,000千円、出えん率 30.0%）

7 事業目的

芸術文化に関する調査研究を行い、芸術文化の分野における創造的活動を助成し、市民文化の普及・向上を図るための各種文化事業を実施し、もって京都市における芸術文化の発展に寄与することを目的とし、あわせて国際文化交流の促進に努めるものとする。

8 業務内容

- (1) 芸術文化に関する調査研究及び情報の提供
- (2) 各種芸術文化事業の実施及び奨励
- (3) 芸術文化に関する教育及び普及
- (4) 芸術家等の育成及び顕彰
- (5) 芸術文化活動拠点の運営
- (6) 芸術文化に関する国内外との交流
- (7) その他芸術文化の振興を達成するために必要な事業

9 所管部局

文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課(TEL075-222-3119)

10 役員名等

(1) 理事長

近藤誠一

(2) 副理事長

村山明

(3) 専務理事

山下聡

(4) 業務執行理事

建島哲

(5) 理事

石原完二、大木富志、桑原仙溪、茂山あきら、白井進、田中誠二、細尾真生、松尾恵、森川佳昭、砂川敬（京都市文化芸術政策監）

(6) 監事

中路健一、牧澤憲（文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課事業推進担当課長）

11 職員数

常勤職員数 15名（うち本市派遣職員 2名）、非常勤職員数 12名

目標2 「京都芸術センターにおける若手芸術家等の育成」	
令和4年度の目標	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための事業の見直しを実施しつつ、回復期以降は、制作室の提供を積極的に行うとともに、co-program（公募プログラム）等を通じて創作、実験、発表の各段階における支援を行う。また、その他、芸術家の育成に係る事業も幅広く実施していく。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	基幹事業である制作支援事業として、①制作室の無償提供では使用者の拡充に努め創作活動を支援すると共に、②KIPPU（ロームシアター京都と連携した若手芸術家の育成支援プログラム）では本格的な舞台制作を後押しする。 また、Co-program（公演・展覧会・調査研究等の公募事業）では若手から中堅の芸術家・団体を対象に、創作から発表までを幅広く支援する。その他の自主事業（ギャラリー事業等）では若手芸術家を積極的に起用し、活躍の場を提供する。

指標	制作室利用者及び芸術センター事業に起用した若手アーティスト等による、文化芸術に係る主要な賞の受賞						(単位：人)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		15		26	15		15	

(2) 事業実績（令和3年度）

※・新型コロナウイルス感染症の影響により中止・延期した事業

ア 自主事業

- (ア) 芸術文化に関する調査研究及び情報の提供
 - a 文化誌「藝文京」の発行
 - b 協会ホームページの運営
 - c 中長期ビジョン策定プロジェクト
- (イ) 各種芸術文化事業の実施及び奨励
 - a リレートーク「藝文京」
 - b 京都ビッグ・バンド・フェスティバル※
 - c 各種芸術文化事業の奨励（後援・共催）
- (ウ) 芸術文化に関する教育及び普及
 - a 京都いけばなプレゼンテーション 2021
 - b 藝文京芸術教室
- (エ) 芸術家等の育成及び顕彰
 - a 芸術家等の顕彰（京都市芸術文化協会賞・新人賞）
- (オ) 総会・懇親会※
- (カ) 会員増加に向けた取組

イ 受託事業

- (ア) 市民狂言会
- (イ) 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出（京都文化芸術プログラム 2020* 関連事業）
文化芸術授業（ようこそアーティスト）、伝統公演授業（ようこそ和の空間）※、
中学生の能楽大連吟※、教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」※
- (ウ) アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業

- (エ) 京都市文化芸術総合相談窓口 (KACCO) の運営
 - (オ) 京都市助成金等内定者資金融資制度 (融資窓口業務)
 - (カ) その他 京都市自治記念式典オープニングセレモニー※
- ウ 芸術文化活動拠点施設運営事業 (京都芸術センター管理運営事業)

【活動センター機能】

- (ア) 伝統的芸術の継承・創造事業
 - a 明倫茶会
 - b 伝統芸能文化創生プロジェクト
- (イ) 芸術家・芸術関係者育成事業
 - a 京都国際ダンスワークショップフェスティバル 2021
 - b トラディショナル・シアター・トレーニング 2021※
 - c KAC Performing Arts Program 2021
 - d 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTAMN
 - e 関西のグループ展「ニューミュージアム#4」
 - f FOCUS 展#3 マヤ・ワタナベ「Suspended States」展
 - g ヴィラ九条山開館 30 周年記念展覧会「SYNCHRONICITY」展
 - h 跳ぶ前に聞け！
- (ウ) 先駆的・実験的事業
 - a ニュイ・ブランシュ KYOTO 2021
 - b KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2022 prologue
- (エ) 制作・発表支援事業
 - a 制作支援事業 (制作室使用者募集)
 - b Co-program 2021
 - c U35 創造支援プログラム事業「KIPPU」

【情報センター機能】

- (ア) 芸術文化情報の収集・発信事業
 - a 図書室の運営
 - b 情報コーナーの運営
 - c 通信紙「京都芸術センター通信」の発行
 - d 京都芸術センターウェブサイト、SNS
 - e 京都文化芸術オフィシャルサイト<KYOTO ART BOX>
- (イ) その他 (視察・見学の受入)

【交流センター機能】

- (ア) 国際交流事業
 - a アーティスト・イン・レジデンス
 - b アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業 (再掲)
- (イ) 市民及び芸術家相互の交流事業
 - a 明倫レコード倶楽部
 - b 明倫ワークショップ
 - c CONNECT5 展
- (ウ) 地域・学術・産業との連携事業
 - a ボランティア・スタッフ
 - b 地域との連携事業 (ペトロフ・ピアノコンサート※、明倫フェスタ)
 - c そめぬいおりくみ展
- (エ) ネットワーキング
 - a 京都文化芸術コア・ネットワークの運営
 - b パートナーシップ/ネットワーク

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標1 「収支相償経営の継続」	
令和4年度の目標	公益法人として、健全な経営を行う必要があると同時に、収支相償の経営も求められているため、実質的な当期経常増減額がマイナスにならないよう留意しつつ、経費の節減、計画した積立金の確保を含む予算執行管理の徹底等により、安定的な経営を目指す。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	公益法人として、健全な経営を行う必要があると同時に、収支相償の経営も求められているため、実質的な当期経常増減額がマイナスにならないよう留意しつつ、インターネットやSNS等を活用した広報活動による印刷費・郵送費等経費の節減、計画的な積立金の確保を含む予算執行管理の徹底等により、引き続き安定的な経営を目指す。

指標	当期経常増減額						(単位：千円)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			19,294		6,555	500		500

目標2 「自主財源の確保に向けた取り組み」	
令和4年度の目標	市からの運営補助金の見直しなど、今後厳しい経営状況が見込まれることから、企業との連携事業やファンドレイジング、企業版ふるさと納税を活用したプロジェクトへの参画など、協会の特性を生かした新たな自主財源の確保の強化を図り、芸術文化の普及・向上に向けた社会的ニーズに自主的・自立的に対応できる財務的な基盤を作る。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	京都芸術センターの活動を周知し、活動趣旨に賛同いただくファンを増やすとともに、企業等が当財団に対して寄附を行う際に、税制上の優遇措置が受けられることを丁寧に説明し、特定寄附金の獲得に努める。また、新たにクレジットカードを利用したオンラインでの寄附受納のシステムを導入したところであり、今後、寄付をされる事業者の利便性の向上、継続的な特定寄附金の獲得に取組み、まずは目標設定の1,000千円の収入確保を目指す。さらに、自主事業として、施設をロケーション撮影場所として提供する収益事業の実施に向けた準備に着手する等、補助金に代わる新たな自主財源の確保にも努める。

指標	寄附を受けた財産の額						(単位：千円)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			170		470	1,000		1,000

主要財務数値		(単位：千円)						
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)
経常収益	253,168	370,928	272,037	259,099	234,249		225,555	
経常費用	253,168	351,634	272,037	252,544	233,749		225,055	
当期経常増減額	0	19,294	0	6,555	500		500	
当期正味財産増減額	0	19,294	0	6,555	0		0	
資産合計	-	273,134	-	250,710	-		-	
負債合計	-	158,593	-	129,614	-		-	
正味財産	-	114,541	-	121,095	-		-	
うち累積損益額	-	64,541	-	71,095	-		-	

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R2 決算	R3 決算	R4 決算 (※)	R5 予算
委託料	京都芸術センター運営〔指定管理〕	130,577	129,178		127,228
	市民狂言会	1,600	1,600		1,600
	京都市芸術文化特別奨励制度	171	-		-
	京都市文化芸術顕彰制度	1,677	-		-
	京都市助成金等内定者資金融資制度	395	395		395
	文化芸術事業(ようこそアーティスト)	15,667	18,736		17,300
	アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業	2,150	2,200		1,600
	伝統公演授業(ようこそ和の空間)	10,731	3,256		6,800
	京都市文化芸術活動緊急奨励金	6,000	-		-
	京都市緊急支援パッケージ	23,760	-		-
京都市文化芸術総合相談窓口	-	25,000		16,000	
補助金	京都市芸術文化協会事業補助金	124,824	24,824		20,000
貸付金	京都市助成金等内定者資金融資制度に係る貸付金	40,000	40,000		40,000
その他	伝統芸能文化創生プロジェクト負担金	13,000	14,300		9,300

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標1 「業務管理・執行体制の強化と安定化」	
令和4年度の目標	全職員が一体となり、着実に業務を進めるとともに、事務のより一層の効率化・適正化を図る。また、業務量や内容を踏まえ、適宜各職員の業務分担の見直しを行うとともに、人材育成や、人員拡充も視野に入れた組織の強化・安定化に努める。特に研修を体系化し、京都市や企業が行う研修を積極的に受講させるなど、職員の人材育成を強化する組織づくりを継続的に推進し、協会の自主性・自立性を高めていく。
令和4年度の取組結果(※)	

令和5年度の目標	<p>組織運営を持続可能なものとし、適切に事業を推進するため、補助金・助成金の獲得や企業との連携事業等の実施による財務基盤の強化に努める。また、受託事業の規模や内容の変更に応じて、外部委託等を活用するなど、業務に見合った職員の配置・業務分担の見直しを適宜行いつつ、適正な金額での事業の受託に取り組むことで、業務の効率化と組織の安定化を進める。</p> <p>年間を通じて計画的な研修を行うことで、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスを順守する組織体制の構築に継続して取り組み、専門的能力を有する人材の育成および協会の自主性・自立性をさらに高める。</p>
----------	--

指標	業務管理・執行体制の強化 (人材育成のための研修等の実施)							
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		再点検、 見直し (5)		再点検、 見直し (9)	再点検、 見直し (5)		再点検、 見直し (6)	

目標2 「京都市からの派遣職員の削減の検討」	
令和4年度の目標	<p>中長期的な協会の運営を見据えながら、事業の確実な進捗を図りつつ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、協会独自の人材育成等について検証を進める。特に研修を体系化し、京都市や企業が行う研修を積極的に受講させるなど、職員の人材育成を強化する組織づくりを引き続き推進する。</p> <p>また、職員の役割分担の見直しを行い、本市派遣職員へ依存しない体制を整え、協会の自主性・自立性を高める。</p>
令和4年度の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	<p>中長期的な協会の運営を見据えながら、事業の確実な進捗を図りつつ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、協会独自の人材育成等について引き続き検証を進める。年間を通じて計画的な研修を行うことで、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスを順守する組織体制の構築に継続して取り組み、組織・事業の管理運営等、専門的能力を有する人材育成を行う。また、現在市派遣職員が担っている業務を、将来的に財団のプロパー職員が担うことができるよう、法人運営に必要な知識・技能の習得を図り、関連する外部研修を積極的に受講させる等、財団運営の更なる効率化に取り組む。本市派遣職員へ依存しない体制を整え、協会の自主性・自立性をさらに高める。</p>

指標	派遣職員数削減に向けた検討 (法人運営に関する外部研修等の実施)							
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			再点検、 見直し (0)		再点検、 見直し (0)	本市派遣職員へ依存しない体制の検討 (0)		本市派遣職員へ依存しない体制の検討 (3)

第3 令和4年度の経営評価（令和3年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>財政面では、令和2年度中止した事業の開催に伴う事業収入や文化庁等からの助成金の増加、令和2年度免除していた協会の会費を徴収したことにより、経常増減額は6,555千円の黒字となった。その黒字については、収支相償の原則に則り、協会設立50周年事業に向けた積立等、公益目的事業に資する経費として計画的に執行する予定としており、公益財団法人として適正な財務管理が行われている。</p> <p>令和4年度経営計画に基づき、積極的な補助金・助成金の確保、企業との連携事業やファンディングなどにより、収入源の多様化を図るとともに、適正な金額での事業の受託などにより、安定的な財務基盤の確立に取り組み、市の補助金に頼らない、自立した経営へ繋がる取り組みを進められたい。</p>
事業面	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、オンラインを活用した事業を実施する等、芸術家とともに新たな形での文化芸術の魅力の発信に取り組んできたことは評価できる。一方で、コロナ禍で予定通り実施できない事業や、中止や延期した事業があった影響もあり、事業参加者数は前年度よりも減少している。ポストコロナも見据え、引き続き文化芸術の振興に取り組まれたい。</p> <p>平成29年3月に策定した第2期京都文化芸術都市創生計画及び、令和3年度に協会設立40周年として策定・公表された中期ビジョンの実現に向け、若手芸術家等の育成に努めるとともに、市民等が文化芸術に触れる機会を創出し、文化芸術によるまちづくりを推進することを期待する。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>ウィズコロナ社会における文化芸術活動の総合相談窓口の設置など、市と連携し、芸術家や文化団体の支援等に取り組まれている事業内容は評価できる。京都市からの事業補助金は令和6年度までのサンセット事業とされていることも踏まえ、補助金に頼らない自立した経営に向けた取組を計画的に進めていただきたい。また、職員派遣の削減については、経営計画に基づき、人員体制の見直しなど、具体的な取組を計画的に進めていただきたい。</p>
--